

「学生による授業評価」に基づく 授業報告書

2020（令和2）年度

新型コロナウイルスのため「オンライン授業に関する調査」を実施した。
その経緯と概要を、従来の「学生による授業評価」に基づく授業報告書として公表する。

聖心女子大学

目次

第1章 2020年度の学生による授業評価について・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章 聖心女子大学グッドティーチャー賞の推薦・・・・・・・・・・・・2

第1章 2020年度の学生による授業評価について

2020年度はCOVID-19の感染拡大防止の見地から、期せずして、ほぼ1年間、オンラインでの授業を中心に教育活動を行うこととなった。準備の期間がほとんどない中、教員も学生も初めてオンラインツールを用いて授業を展開することとなった。そのため、2020年度は個別の授業評価を実施せず、前期終了後の7月24日～8月14日と後期終了後の1月20日～2月14日の2回、授業全体に関する評価や問題点を明確化するための全学的な調査を実施した。これらは、「2020年度前期オンライン授業報告書」「2020年度 後期 学部「オンライン授業に関する調査」報告書」として学内に公開され、学生、教職員にて共有された。

詳細は上記報告書に譲るが「2020年度前期オンライン授業報告書」において、オンライン授業での理解度の評価を尋ねたところ、「分かりにくい授業が多い」との回答が15%であった。また、「課題が多すぎる」と7割弱が回答し、4分の1の授業で課題へのフィードバックがなされていない状況が示された。その結果、前期の授業への満足度は、「とても不満」は7%、「やや不満」が27%と合わせて3分の1弱の学生が不満感を表明していた。

また、この調査からオンライン授業に対して学生感じるデメリットとして、は、「コミュニケーション不足」「集中力の低下」「情報機器の操作への不安」があり、これらを解決する手段として、「課題量を増やさない」「出した課題へのコメント等をフィードバックする」「できるだけリアルタイムでの授業形式をとる」ことが有効であるとの解析結果が示された。これを受け、教務担当副学長の指示の下、オンライン授業検討ワーキンググループが中心となり、4月に作成、配布した「インターネットツールを活用した授業マニュアル（教職員用）」を改訂した。本マニュアルを9月15日付で教職員に提供し、後期の授業方法を工夫・改善するよう依頼した。

後期終了後の調査結果を見ると、上記の3点に関して「改善が見られた」と回答した学生が7割強～6割見られた。また、オンライン授業の理解度も、「分かりにくい授業が多い」は半減し、「全体に分かりやすい」との回答が10ポイント程度増えていた。授業への満足度に関しても、「とても不満」が7%から3%に、「やや不満」は27%から15%に減少する一方、「とても満足」との回答も9%から29%へと高まっていた。

1年間の経験で学生、教職員がオンライン授業への対応を整えたという面もあるが、調査データに基づき、授業の改善ポイントを明らかにし、後期に向けた対応を行ったことは大きな影響があったものと考えられる。この他、前期の調査から、オンライン授業のメリットとして学生は「マイペースで学修できること」「教員との距離が近いこと」を感じており、さらに一時社会的に問題視された「課題提示型授業」「オンディマンド型授業」も、適量の課題やフィードバックが担保されていれば、「マイペースで学修できる」というメリット感につながることも示されるなど、今後のオンライン技術を活用した授業方法改善の方向性も見えてきた。

第2章 聖心女子大学グッドティーチャー賞の推薦

「聖心女子大学グッドティーチャー賞に関する内規」に基づき、グッドティーチャー賞を推薦することになっているが、2020年度はコロナ禍のため、ほぼオンライン授業によって実施され学生も教員もこの新しい授業方法に馴れることが優先課題となった。そこで個別の授業評価を実施せず、本年度はグッドティーチャー賞の推薦を休止することとした。

2021（令和3）年度8月31日
聖心女子大学